

地水火風

牧野 恒一

日本列島は7月末から猛暑に襲われ、連日、経験したことのないような暑さが続いている。同様の熱波はヨーロッパやアメリカをも襲い、各国で林野火災が多発して大きな被害が出ている。地球温暖化がこれらの国々で林野火災の多発に繋がっているのは明らかだ。日本ではどうだろうか？

最近の世界の林野火災の状況と日本の状況を見てみよう。

ヨーロッパでは熱波で林野火災が多発

今年、6月から7月にかけてヨーロッパ各地を熱波が襲い、各地で史上最高気温を記録するとともに、林野火災が相次いでいる。

地中海沿岸諸国は温暖で乾燥した気候で観光客

に人気があるが、今年は猛烈な熱波が特に早く来て、ひどい状況になっている。スペインでは今夏最初の熱波が6月上旬に到来し、各地で40度を超えた。イタリアやクロア

チアでも、6月の最高気温を更新している。地中海沿岸諸国は、毎年夏になると高温・乾燥のため林野火災が多発することでも知られているが、今年には特に凄まじい。スペインでは、西部などの林野火災で少なくとも4千ヘクタール(ha)が燃え、ポルトガルでも1万3千ha以上が被害を受けて、家屋被害も約60軒に上っている(参

考・山手線の内側の面積は6千3百ha)。ギリシヤでも複数の林野火災が連続して起きている。またフランスでも、西部シロンドで発生した林野火災2件が計8千haを焼

き、1万1千人以上が避難を余儀なくされた。ポルトガル周辺の田園地帯では、約1万9千haが燃えている。深刻なのは、普段なら夏でもそう暑くならない地方で高温記録が続出してのことだ。

6月には、北欧など欧州各地で最高気温を更新。北極圏のノルウェー・バナクでは32.5度を観測し、北極圏の6月の平均気温を20度近くも上回った。イギリスのヒースロー空港で7月19日に史上最高の40.2度を記録したのを初め、フランス、ドイツなども軒並み40度を超えた。イギリスやドイツは都市や家屋が高温を想定しておらず、冷房のない施設も多いという点で、市民が相当苦しんでいる様子が報

道されている。7月19日にロンドン南東にあるケント州ダゲナムで発生した林野火災では、3万2千haが燃え、隣接する住宅地にも延焼した。

オーストラリアは、今冬で林野火災シーズンではないが、夏には毎年林野火災が多発すること知られている。特に2019年から20年にかけては、雨が史上最も少なく空気が乾燥し、平均気温も過去最高だった上、12月には記録的な熱波が到来したため、最悪の林野火災被害を被った。2020年1月11日まで、延焼面積10万7千ha

よって偏西風が蛇行したためだという。偏西風が北にシフトした地域では、高温の空気が南から吹き込む。たとえばヨーロッパでは、サハラ砂漠の空気がヨーロッパの北部の方まで張り出したのだという。こう聞けば、異常高温も無理はないと納得できるが、地球温暖化が進めば、この暑さが常態化する可能性もあり、恐ろしい。

空気中の水分量が一定なら、高温になれば相対湿度は低くなる。異常高温は異常乾燥を伴い火災危険が高くなるのが普通なのだ。

日本の、特に太平洋側の地域は、夏は気温も高いが湿度も高いため、夏になると乾燥して火災危険が高くなる」と聞くと違和感があるが、世界的

熱波による欧米諸国の林野火災多発と日本の状況

野火災が発生しているのに、林野火災は増えていないと思っ

たが、最近30年間のデータを調べてみると、必ずしもそうでもない。

アメリカの林野火災の件数は、年によって変動はあるものの、1991年から2008年までは概ね横ばいで推移し、それ以降はなんと30%以上

も減少しているのである。アレットと思うが、火災1件当たりの焼損面積をみると、1991年の16ha/件から2020年の70ha/件まで、30年間に4倍以上に急増している。

アメリカの場合、地球温暖化の林野火災に対する影響は、火災件数の増加ではなく、大規模火災の急増という形をとって

現れているのである。日本の場合はどうか？

昨年は足利市で大規模な林野火災が発生しており、日本も地球温暖化の影響で、林野火災が増えているのかと思っ

たが、調べてみると、これも意外な傾向を示している。日本の場合、最近の40

年間に平均気温は0.5度上がっているのだが、この間に林野火災件数は70%も減っているのである。火災1件当たりの焼損面積を見ると、1980年頃の100オール/件程度から2005年前後の50オール/程度まで25年間に半減し、その後は横ばいで推移している。単位がhaでなくオール(ha)の100分の1」というのもつまし

い。日本の林野火災の場合、地球温暖化にもかかわらず、火災件数も火災1件当たりの焼損面積も減少するという結果になっている。ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアでは、気温の上昇が乾燥に繋がって林野火災の増加や大規模化に繋がっているのだが、日本の場合はそうではない。

日本では、最近豪雨が増えた印象があるが、平均降水量で見ると偏差の範囲内だ。平均気温は上がっているが、特に雨が多くなると乾燥が進んだとも言えない状況にある。

日本の場合、林野火災の件数や規模には、地球温暖化よりも、林野の管理状況、手入れ・伐採・山菜採り・ハイキングなどのために林野に入る人の増減や防火マナーの善し悪しなど、社会的、人的な要素の方が効いているのではなからうか。